

地域に飛び出す連続講座 in 甲子園

☆開催概要

開催日時：平成 23 年 11 月 13（日） 12 時開講（11 時 30 分受付開始）

会 場：西宮市役所東館 8 F 大ホール

参加人数：93 名

主 催：地域に飛び出す連続講座 in 甲子園 実行委員会

共 催：兵庫自治学会



◎講座の概要

第一講 「地域力とは？～地域力創造のカギ」について (12:05～13:25)

総務省自治財政局長（前 地域力創造審議官） 椎川忍 氏

第二講 「自治体の財政診断：財政状況は悪いが破綻しない？」の不思議 (13:30～14:50)

関西学院大学 教授 小西 砂千夫 氏

第三講 実践例報告&グループ討議 (15:00～16:10)

◎ 教育と行政 一緒になった将来を見通したまちづくり

T O S S兵庫 川原 雅樹 氏

◎ 映画製作による地域の活性化事例～映画「ふるさとがえり」に製作に携わって

岐阜県職員 櫻井 優一 氏

第四講 「公務員参加型地域おこしのすすめ」について (16:10～17:40)

総務省自治財政局長（前 地域力創造審議官） 椎川忍 氏

1. はじめに

地方分権が進む中、自治体職員は今までのように国が定めたルールに基づき業務を遂行するだけでなく、自ら地域に出向き地域に見合ったローカルルールを策定する能力が求められるとともに地域コミュニティを活性させる担い手としても期待されています。

今回の講座は、その現状を踏まえ、地域づくりの第一線で活躍されている講師陣を招き、そのノウハウを学ぶとともに現在まちづくりに携われている自治体職員、教育関係の方の実践例報告を聞きながら、グループワーク等も盛り込み参加者の知識の向上と交流をはかるために開催いたしました。

2. 「連続講座」開催に至る経緯

平成 21 年 4 月に総務省主催で第 1 回の連続講座「地域力創造と地域おこしのヒント」が兵庫県西宮市の関西学院大学で開催され、初代地域力創造審議官（現：自治財政局長）で、当講座開催の講師でもある椎川忍氏、関西学院大学教授の小西砂千夫氏などの講義があり、その講座を受講し、感銘を受けた参加者が、地域力を支える人材としての更なる成長を目指し、派生的な連続講座を考案して、昨年の高松市開催に引き続き 2 回目を西宮市で開催する運びとなりました。

また、今回はこの講座の趣旨に賛同いただいた兵庫自治学会とのコラボレーション事業として開催することが出来ました。

3. 講座内容

第一講 「地域力とは？～地域力創造のカギ」について

総務省の椎川局長からは、最近出版された「あるものを生かす地域力創造」の内容に沿って、地域力と創造について以下のとおり講義をしていただきました。

この内容については、著者自らの講義を受けることで本だけでは理解できないことや直接の思いや考え方を聞くことができたことで参加者からは、今までもう一つ意味がわからなかった「緑の分権改革」についてかなり理解することが出来たと感想を頂きました。

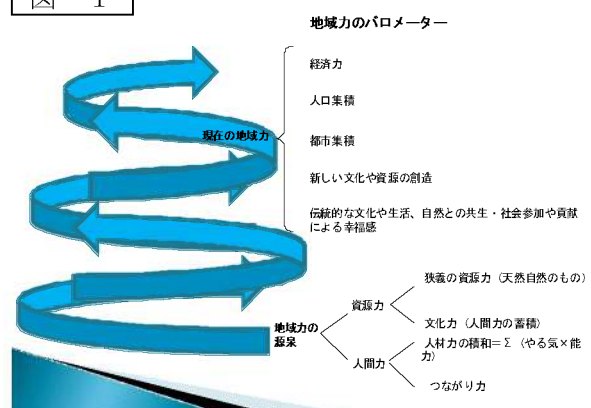
講義は、「地域力とは何か？」という問いかけから始まり、地域には、結局「ヒト」と「モノ」しかないわけで、いわゆる、地域力は「資源力」と「人間力」との結集であり、地域の資源には、「天然自然のもの」と人間力の蓄積である「文化」があるということを説明いただきました。（図-1）

当たり前のようなことですが、図を交えて体系的に説明されたことで、相関関係が良く理解できる内容でありました。

また、人間力＝「 Σ （やる気×能力）」＋「つながり力」と定義されており、やる気はマイナス100



図-1



からプラス100、能力は0から100であり、式で示されたとおりの人間力は、やる気が如何に重要であるかという事がよく理解できました。

中盤以降は、【つながり力とは？】、【重視する人間力とは？】、【人材力の強化の視点】についても体系的に整理された内容を図と講演者自身の体験を交えて解説いただき、【つながり力】を強化するための～絆の再生では、自らの事例を元に説明されることによって【つながり力】の大切さを再認識することが出来ました。

この演題の最後では、【絆の再生の詩】ということで、地域を形成しているのは、いろんな大きさのでこぼこな形をした人の集まりであり、それぞれの能力も、人柄も、使える時間も不ぞろいであるが、それをパズルのように組み合わせて互いに足りないところを補い合えるように紡いでいきながら、みんなの力でまん丸い大きな玉をつくるのが大切である。

すなわち、それが「絆の再生」と定義され、それを仲立ちできる人は、達人あり、地域のなかでそれができたら、他の地域の丸い玉とも組み合わせて、もっと大きな丸い玉にしようということ締めくくられました。

この第一講では、人の力、地域の力、地域の資源、それらをうまくつなぐことが大切であり、参加者も次に自分自身が何をしなければならないか見えてきたのではないかと思います。

以下は、当日の資料に基づき内容を掲載いたします。

【つながり力とは？】

- ・地域内でつながる力＝「絆の再生」
- ・同じベクトルでみんなが協力する土壌づくり
- ・外のネットワークにつながる力＝「広がり結びあう力」
- ・外部人材（助っ人）を活用し、応援団をつくる
- ・ICTの力と開放的でフランクな人間性が必要
- ・自分でできないことを人に助けてもらう謙虚な気持ちを持つ
- ・好奇心、人なつこさ、かべを気にしない、相手を研究する
- ・タテ社会ではなく、ヨコ社会で生きる術（能力）

【重視する人間力とは？】

- ・「住民力」、「公務員力」、「大学力」
- ・「住民力」は、NPOや自治会、PTAなどの力
- ・「公務員力」は仕事をこなす力だけではなく、地域経営の力
- ・優秀な人材を地域の発展とそこに住む人を幸せにするために採用
- ・役場の管理運営は、公務員のミッションの一部にすぎない
- ・最終ミッションは、地域をどう発展させ、どう幸せにするか＝地域経営だ
- ・ICTリテラシー

どんな小さな地域でも世界を相手にできるようになる。一方で地域間競争はグローバルなものに

- ・経営マネジメント力
いろいろな人間や地域資源を効率的に結びつける
- ・リーダー力
実行力、人間としての魅力、先を見通し夢を語る力
- ・ヨソモノ、バカモノ、ワカモノが必要というのはもはや常識
- ・教育力（後継者や仲間の育成など）

【人材力の強化の視点】

- ・あらゆる年代、あらゆる職種、あらゆるグループに「地域づくり人」を育てる
- ・小中学校のまちづくり教育（TOSS との連携）
- ・大学と連携した地域づくり（地域実践活動に関する大学教員ネットワーク）
- ・公務員、NPO、地域づくり団体、民間人を混ぜ合わせた人材育成
- ・地域内の「人の和（輪）づくり」

【つながり力】を強化する～絆の再生

1 やねだん（補助金に頼らないムラづくり）

安心安全、高齢者の健康と生きがいづくり、青少年健全育成、産業おこし、移住交流、人口定住のすべてを同時達成！ あるものを生かした地域おこし

2 ふれあい囲碁とTOSSの活動

孤立から生じる学校現場の問題を解決するふれあい囲碁
命を救うふれあい囲碁（安田9段）と教育技術の共有化団体TOSS

3 半田市における障がい者のノーマライゼーション

NPOふわり、社会福祉法人むさうの戸枝さんの挑戦～全地区に事業所をつくりながら、ケアホームでまちなか居住

第二講 「自治体の財政診断：財政状況は悪いが破綻しない？」の不思議

このタイトルそのものも不思議ですが、話の中身は、もっと不思議で、小西先生に講座の依頼をしたときに、たぶん、今回の参加者のうち、企画・財政系に携わられている方を除けば、地方財政について理解している方は少ないので、この講座をきっかけに、参加者が次の自己研鑽のテーマになるよう地方財政の導入部分についてお話いただきたいとお願いしておりました。

その期待通り、内容は、パワーポイントを中心に時折、事例なども交えながら、軽快な口調で講義していただき参加者も話に聞き入っていました。



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の項目では、横軸に財政の健全化を数値的に理解できるようにスケールを表記し（図-2）、早期健全化基準と財政再生基準の割合について説明を受けた後に財政逼迫と地方債のデフォルトリスクについて先ほどの割合をグラフでわかりやすく解説していただきました。（図-3）

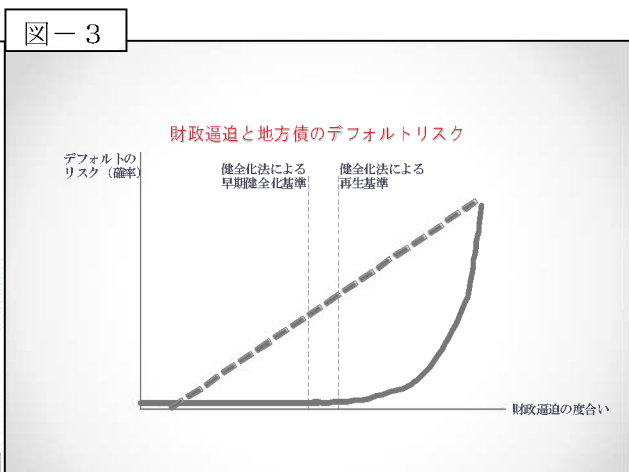
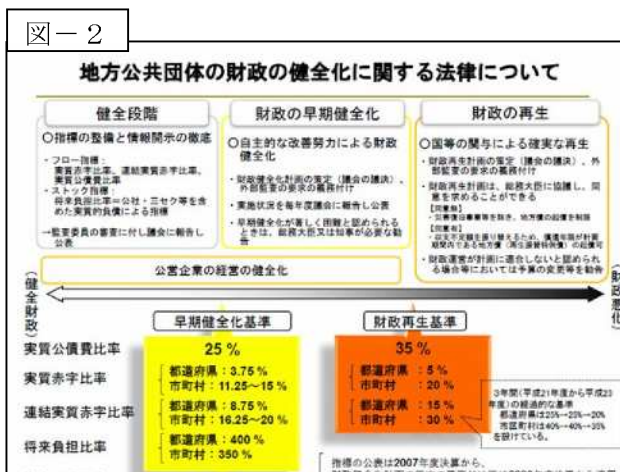


図-4

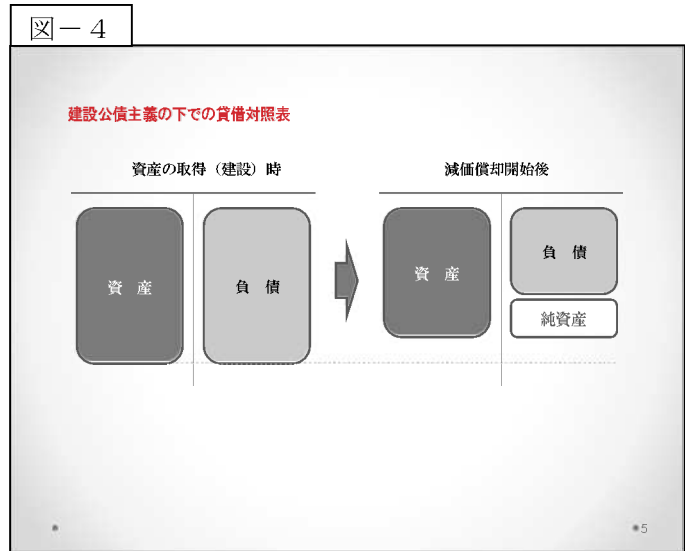
次の地方財政における建設公債主義の項目では、地方財政法の中でも自治体に関わりの深い地方債についてバランスシートを用いて資産の取得時と減価償却が始まった時期とでのシートの変化について解説いただきました。(図-4)

特に、現金主義会計と発生主義会計では、資金調達の間企業と政府財政の違いについて参加者のほとんどが理解できただろうと思います。

その他、貸借対照表と純資産や実質公債比率、将来負担率の考え方や地方債の協議制の意味などを解説いただきましたが、難しいながらもなんとなく理解することが出来ました。

ただ、冒頭にも書きましたが、今回の地方財政制度の講義は、導入部分の話ではあり、わかりやすく解説していただきましたが、財政制度に興味のある方にとっては、非常に興味深い内容であり、今後より探求する意欲が湧いたと思う反面、初めて聞く参加者には非常に難しい内容であったことは言うまでもありません。

どちらにせよ、地方財政制度は地方公務員にとって非常に重要なことなので、今後、この講座を機に常日頃から接している方には、地方財政制度について組織内での啓発を、また、あまり精通されていない参加者の方は、これを気に地方財政のことを勉強していただければと期待しております。



第三講 実践例報告&グループ討議

第三講は、発表者と参加者が双方向のコミュニケーションが行えるようにグループ討議形式で構成し、発表者には地方公務員、教育関係者という参加者になじみの深い方に登壇していただき、その方たちが、実際にまちに出てどのような活動をしているのかを報告していただきました。

参加者の多くからは、文献や一般の講座等では、得ることの出来ない貴重な情報を今回の報告から得ることが出来るとともにグループ討議ではお互い意見交換を行うことにより相互で研鑽する事が出来たとの声をいただきました。

一番手の篠山市の川原氏からは、篠山市で行なっている「教育と行政 一緒になった未来を見通したまちづくり」について報告していただきました。

報告者の川原氏は、現役の小学校の先生で、全国組織であるT O S Sのメンバーでもあり、兵庫県を中心に精力的に活動されております。

配布された資料の中では、夏休み子ども T O S Sデーの企画でJ Cと連携した「篠山観光カルタ」や「理科実験教室」、篠山市長が参加した「五色百人一首 篠山大会」の様などが描かれていました。



この取り組みは、見た目は、複数主体のコラボレーション事業ですが、行政と教育、民間とが一緒になったまちづくりは、県内でも事例はあるものの調整に時間がかかるなど、参加者の中にも調整の

難しさを経験したことがある人も少なくないようで、この取り組みの報告は、経験した参加者にとっては、かなりのインパクトがあったとおもいます。

ただ、今回は、篠山市の成功例を中心に報告していただきましたが、他市で同じように呼びかけたときには、中々苦労したと言う話を少ししていただき、そのことについては、私も含めて妙に納得してしまいました。



二番手の岐阜県職員の櫻井氏が携った「映画製作による地域の活性化事例」については、製作に至る経緯から、資金集め、住民との協働など多岐にわたるリアルな話をしていただきました。

市町村合併に伴い恵那市も合併を行いました。ただ、合併したと言ってもただ単に、行政区だけでなく市民レベルでの一体化も必要と考えて「えな”心の合併”プロジェクト」を立ち上げたのが始まりです。

そこで、人を繋ぐツールとして企画されたのが「市民の手による映画づくり」で企画、運営を自ら行うフィルムコミッションでした。

構成メンバーも主婦から社長まで、老若男女、役100名ほどの多彩なメンバーでスタートを切り、資金調達も自ラ行い、一口1,000円からの映画協賛を募りながら、この企画の存在感をアピールするため資金調達もかねたチャリティイベント等も積極的に開催し、いよいよ地域力が試される映画撮影が始まり、ロケハン、ロケ地の手配、地元ではスタッフの受け入れを行いました。

この企画の立ち上げから関わっている櫻井氏は、当初のことを「創世記—立ち上げからの希望に満ちた3年間」と表しており、一月に一度の広報紙の発行(8,000部/月)、Web製作、ラジオ出演、メンバー間の連絡調整、イベント企画、運営、メンバーの個性・能力を発揮する場としてのクリスマスパーティーの企画など行いフィジカル、メンタルの両面から、この企画を支えてきました。

一方では、予算を抑えるために、スタッフが寝泊まりする空き家確保の交渉や映画の撮影に必要なエキストラを確保するため、各地のイベント訪問、団体の訪問、店舗、民家、景勝地などでの撮影をするための交渉、手続き、製作資金獲得のための協賛活動を行うなど苦勞も絶えなかったようです。

このように、一人の地方公務員では決して達成できなかったことを様々な努力と継続の力で仲間を募り輪を広げていった行動力には、驚かされるばかりでしたが、結局、まちを活性化するために原動力となったのは、「まちづくりはひとづくり」、「ワクワクの先にある未来」、「出会いにキタイ!」ということが重要であったと教えていただきました。

第四講 「公務員参加型地域おこしのすすめ」について

第四講は、この連続講座の締めくくりで、公務員として、というよりも社会人としての気構えについて椎川局長自身の体験を交えて講義していただきました。

講演者自身も以下のとおり、年代別に色々な施策の考案や実施を行っていますが、「自分にしかできない・できなかったと自負できる仕事をしよう!」と講演の中でも言われるように個人の利益ではなく誰かのために行うことが、大切であると説かれたように感じました。



(30代)

- ・ 国際消防救助隊創設
- ・ 消防・救急ヘリの報告書を1人で草稿
- ・ 宮崎県財政課長として、消費税導入予算、「アイデア事業」を考案

(40代)

- ・ 総務部長として「出前県庁」を企画・実施
- ・ 島根県立大学の創設（学長のトップハンティングなど）
- ・ 高度情報通信網や県庁の情報化推進

(50代)

- ・ 自治大学校の経営改革
- ・ 地域経営塾
- ・ 定住自立圏
- ・ 「緑の分権改革」

また、今回も仕事ではなく完全なプライベートで休日を返上してまで西宮に来ていただいていることについて、なぜ？と思われた方もおられたと思いますが、講演者にとってこの講座自体がライフワークのひとつになっていると言うことを聞くことによって参加者自身もこの講座に参加した意味を再認識することが出来たのではないのでしょうか。

「仕事以外にライフワークを持とう！」と簡単には、言えますが中々出来ないもので、人生は長い、公務員（仕事）だけが人生ではないということは、誰もがわかっていることだと思います。

幸せな人間として生きるためには、社会に貢献できる人間になるためにどうすればよいか？

定年退職しても、広く世間づきあいができ仲間づくりができるようになるためにはどのようにすればよいか？についても、答えを見出すことは難しいですが、最低限のルールとして「社会常識を身につける」、「肩書きを捨てても尊敬される自分になる」、「一兵卒として汗を流して働く尊さを実感する」と言うことが、基本ではないかとの説明がありました。

人生を有意義に過ごすためには、達成しなければならないことや色々な苦難はありますが、ただ、漠然と目標を立てたりするのではなく「一番苦手なことを克服すること！」すなわち諦めずに継続することが大事であり、その繰り返しで、力になるということを講演者自身のマラソン体験についてお話いただき、当初、ほとんど走る事が出来なかった自分が走るという目標を設定し継続し苦手を克服した今では、フルマラソンで完走することが出来るようになったという話は、まさに有言実行と言うべきものでした。

また、勉強は自分の時間とお金を使ってするもの、自分は何を求めて、何を勉強しようとしているかを明確に意識することが重要であり、講演自体は、何かアクションを起こすきっかけであり、人脈づくりでしかないといわれ、講演だけ行っている人にはかなりドキッとするような話でした。

なぜ、講演を聴いても勉強にはならないかということ、大抵は講演を聴いて、「いい話だった」、「ためになった」とそのとき思っても、時間とともに7～8割は右の耳から左の耳へ抜けていくだけという経験に基づいてのことでした。

だから、是非この講座の参加者の方には、今何かしようと考えているのならば、即実行、即行動に移すことが大切であり、もし、出来ないと思うことがあるなら、人からアドバイスを受けることも一つであるが、是非、自分自身で勉強して問題の解決に取組む訓練が必要であると言うことをアドバイスを頂きました。

最後に、今自治体、地域、公務員が考えるべきことや求められるものは、ニーズの変化とともに多様多様になってきています。そのような現状において今までのように、役所（役場）を管理運営する

ことや制度を運用するだけでは不十分であり、地域社会の一員として、また、時にはリーダーとして地域を経営することが大切であるという言葉で今回の講座を締めくくられました。

最後に

今回の講座を西宮で開催できたことは、非常に光栄なことで本市の職員はじめ他市からも応援があり盛会のうちに終わることが出来ました。

講座自体が、ある意味、企画者たちのライフワークのひとつになっていたことも要因でしたが、各人が形態は違えども色々な形で「まちづくり」に参加しており、企画段階から色々なアイデアを出し合いながら出来たことが一番の要因ではなかったのかと思います。

一方、講座の内容は、まちづくりに携わる方は勿論、それ以外の方から見ても現在の社会情勢にあったものと確信しておりますが、主催者にとって、休日にもかかわらず参加者の皆さまが自ら西宮まで足を運んでいただいたことや講座開催前から、たくさんの意見や要望をいただいたこと、実践例報告では、2名もの方が自らエントリーしていただいたこと、まさに当初から目標としている企画者と参加者が一体となった講座を開催することができたことに深く感謝いたします。

来年の開催地は、大阪市に決定いたしました。今後もこの講座を継続し、人の輪を広げていきたいと考えております。